

# ボクシング競技における安全対策について

ボクシング専門部 佐藤 敏夫（秀明英光高等学校）

## 1 はじめに

ボクシングは、古代オリンピックの種目として行われていた。古い歴史を持つスポーツです。当時すでに成年と少年に分かれていた。近代ボクシングは、18世紀にイギリスで始まった。その後、ヨーロッパやアメリカ大陸の各地に伝わり日本には1921年に東京で始まる。現在、国際ボクシング協会の加盟国は196ヵ国と地域におよび、世界各国で行われている。その理由としてボクシング競技は、経済的な負担が少なく、また、小人数で施設、場所もとらないため普及したと考えられる。

ボクシング競技は、攻撃と防御のバランスで成り立っている。同じ体重の選手同士で競技するスポーツであり、体重別に階級が決められ、高校生の大会（高校総体、国体）ボクシング競技は8階級に区分されている。オリンピック大会は10階級に区分されている。ジュニア（少年男子）2分3ラウンドで競技が行われる。ラウンドの間には1分のインターバル（休憩）がある。シニア（成年男子）3分3ラウンドで競技が行われる。ラウンドの間には1分のインターバル（休憩）がある。服装は、自分のコーナー色のユニホームを着用、また、自分のコーナー色のグローブ、ヘッドギアを付けて試合に臨む（赤、青色の2種類を準備）

## 2 安全対策について

### ◇身体保護の安全対策について

#### 【バンテージ】

バンテージを巻く一番の理由は（拳の保護）にある。

#### 【グローブ】

高校の試合では10オンスのグローブが使用されている。（1オンスは約28,35g）

#### 【マウスピース】

ボクシング競技では、マウスピースの着用が義務付けられている。目的は噛み合わせが増すことでパンチ力の向上（口内・歯の保護）であり、パンチの被弾によるアゴのずれ、歯の損傷、そして脳震盪の予防といった安全対策である。

#### 【ヘッドギア】

近年までアマチュアボクシングの最大の特徴でもあったこのヘッドギアは、相手のパンチ力の軽減はもちろん、接近戦のバッティングの防止、カットの防止といった（頭部の保護）にある。

AIBA（国際ボクシング協会）は競技中のヘッドギアの使用をなくし、日本でも国際ルールに合わせ成年の競技からヘッドギアの使用をなくしているが、安全上高校生には着用が義務付けられている。

### 【レフリー】

4つの命令語を用いる。

- ① タイム（タイムキーパーに時計の停止を伝える。Tの合図を送る。）  
（試合中の選手の負傷、脛のカット、肩脱臼等）
- ② ストップ（試合時のダウン、危険行為、繰り返し行われる反則、鼻からの出血、アクシデント等）
- ③ ボックス（試合開始の合図）
- ④ ブレーク（お互いが押し合い状態、両者がバックステップをして試合を開始する）

反則の諸注意に関しては、ヘッドアップ、ノーホールド、ノーオープンブロー、ノーローブロー（試合前握手時にも伝える。試合中は流れを止めないで言葉で示す）

レフリーは故意で悪質な反則に対しては、警告を与えなければならない。

### 【採点システム】

10ポイントマストシステムを採用

各ラウンドごとに、赤・青どちらの選手が優れているかを判断し、優れている方に10点を与える。劣勢な方に少ない点数を与える。

### 【ポイント勝ち】WP

競技の終了後、各ジャッジの与えた得点の多数決により勝者を決定する。

故意でないファールで負傷があり競技がストップした場合、それまでの得点で勝者を決定する。

### 【テクニカルナックアウト】TKO

競技者が自発的に棄権するか、コーチがリング内にタオルを投げ入れた時相手競技者はTKO勝ちとなる。また、片方の競技者に決定的な差がついている場合や劣勢な競技者が過度な打撃を受けているとレフリーが判断した場合、相手競技者はTKO勝ちとなる。ダウンの後競技が続けられないと判断した場合、相手競技者はTKO勝ちとなる。

カウントリミット、ジュニアの場合1ラウンドに3回、1競技で4回

### 【失格勝ち】DQ

選手が反則やその他の理由で失格になった場合、相手選手はDQ勝ちとなる。

### 【ノックアウト勝ち】KO

選手がダウン後10秒以内に競技ができない場合や、レフリーがダウンした選手に異常を感じカウントを省略してリングドクターを呼び入れた場合、相手選手はKO勝ちとなる。また、両競技者が、ノックアウトの場合、両者が負けとなる。

### 【不戦勝】

一方の選手がリング内に登場し、相手選手がアナウンス後にリング内に現れない場合ゴングが鳴らされる。その後1分間が過ぎても登場しない場合リング内に登場している選手がWO勝ちとなる。

◇施設環境の安全対策について

リング・・・四角で囲っているリングロープの強度は適切か。

サンドバッグ・・・吊るしてあるサンドバッグのボルトは十分に固定されているか。

換気・・・練習前に十分換気をしているか。

水分補給・・・インターバル中にうがい、水分補給ができるよう用意されているか。

◇体調管理把握について

ボクシング競技において減量は不可欠であり、高校ボクシングにおいても例外ではない。しかし、過度の減量は競技力低下だけではなく、命に関わる重大な問題である。普段の標準体重を正しく把握するとともに練習の前後に体重を計る習慣を付けさせ、1度の練習でどの程度体重の変化があるか確認させることが大切である。

3 おわりに

ボクシングにはプロボクシングとアマチュアボクシングの2つの世界がある。アマチュアボクシングは教育としてのスポーツであり、力、技術だけの練習だけではなく精神（心）のトレーニングが大切である。ボクシングに対する考え方、行動、思想を持たなければならない。